

天才科学者たちを悩ませた物理学の難題

「三体問題」分かりやすく

浅田教授(弘大)が解説本出版

弘前大学理工学研究科の浅田秀樹教授は、300年以上、世界の天才科学者たちを悩ませ続けた物理学の難題「三体問題」について解説した書籍を「ブルーバックスシリーズ」(講談社)から出版した。高校数学程度の予備知識で読めるように分かりやすく説明。同大学院に在籍していた研究者の成果にも触れている。浅田教授は「答えがあるはずなのに、解けない問題もある。人生と同じ。若い人に科学の奥深さを知ってもらいたい」と話している。

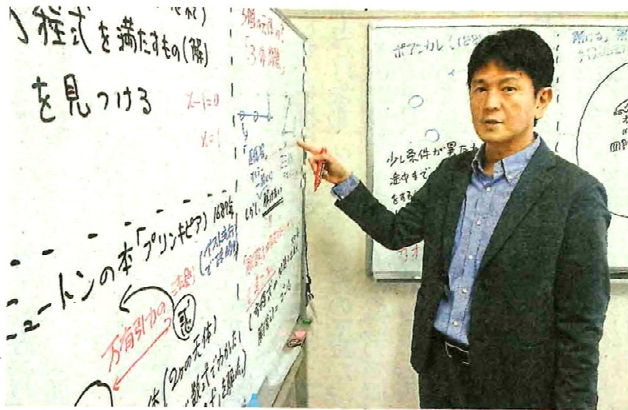
三体問題は、質量を持つ三つの物体の間で互いの引力が作用するとき、その動きは予測できないとされる。その法則によって2個の天

命題。アイザック・ニュートン(英)が1687年、万有引力の法則の発見と、その法則によって2個の天

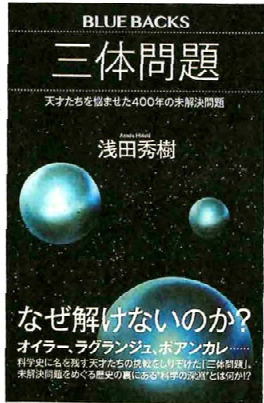
体の運動が決まることを発表した。一方、天体が3個の場合の動きについては、数々の科学者が答えを見いだそうとしたができなかった。数

学者アンリ・ポアンカレ(仏)は1887年、三体問題の答えが得られないことを証明し発表。以来、「カオス(実現不可能)」の研究が続いている。

浅田教授は「条件や環境が少し違っただけでも、まったく将来が予想できなくなるのは三体問題も人生も同じ。物理の面白さを知ってほしい。若い人には難題にチャレンジする姿勢を持ってほしい」と語った。



【写真上】三体問題について説明する浅田教授【同左】浅田教授が執筆した書籍「三体問題」の表紙



「三体問題」は、税抜き千円。全国の書店で取り扱っている。

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。

東奥日報社に無断で転載することを禁止します。

[問合せ先]弘前大学理工学研究科

E-mail:r_koho@hirosaki-u.ac.jp